

平成28年度国立大雪青少年交流の家  
第1回施設業務運営委員会利用促進部会議事要旨

日 時 平成28年6月6日(木) 15:05～  
場 所 大雪青少年交流の家 2階 第2研修室

運営委員出席者 : 山中委員, 十川委員, 田中委員, 岩城委員 計 4名  
欠席者 : 竹村委員, 尾崎委員, 松倉委員 計 3名  
国立大雪青少年交流の家出席者: 秋山事業推進室長, 安達企画指導専門職, 石川事業推進室員,  
小林事業推進室員 計 4名

(●事務局 ○部会長 □委員)

●事務局

資料確認, 会議時間確認, 委員紹介, 欠席委員報告, 事務局自己紹介

○部会長による議事進行

○部会長

広報部会から利用促進部会に名称変更があったが, 何をやるべきかを理解しやすいと思う。  
まず, 議題に入る前に当部会の役割と昨年度の報告について最初に事務局より報告願いたい。

●事務局

(資料2) 「新しい公共」型施設運営のための利用促進部会計画(案)

当部会の役割は, 「支え合いと活気のある」施設を作るために, 「協働の場」の一つとして, 国立大雪青少年交流の家の利用促進について幅広い意見を収集, 反映することにより, 成果をあげる  
ことである。

(資料3) 平成28年度目標数値と現状

平成27年度の利用状況は, 総利用者数が107,405人で目標人数の114,000人は達成  
できなかった。また, 稼働率は53%で目標稼働率の57%を達成できなかった。

平成28年度は, 特に宿泊者数及び宿泊室稼働率を上げることが最優先の課題となっている。

□委員

平成28年の現状の利用者数62,152人は現時点の予約数のことか。

●事務局

そのとおりである。今後, 利用申し込みが入ることで増加する数値となる。

○部会長

議題1・2: 「平成28年度利用促進アクションプラン」及び「利用促進月間における利用者新規  
獲得方策」について関連する議題であるので, あわせて事務局から説明を願いたい。

●事務局

(資料4) 平成28年度利用促進部会アクションプランとその実施状況(案) (自己点検・評価表

の評価に係る根拠資料)

利用促進部会の主な検討事項及び目標を達成すべき行動計画として、一案を示したものである。宿泊者数を増やすために何をすべきか、部会において各委員の意見・協力を得ながら具体的な方策を考え、実行に移すものとして、今後策定していきたい。

・数値目標について

今年度の総利用者数は9万3千人(宿泊利用7万1千人、日帰り2万2千人)である。日帰りの目標人数が減った理由については、「地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動」による下山プロジェクトの参加人数が利用者カウントできないこととなったためである。これにより1万5千人減。また、宿泊目標を減とした理由は、自衛隊のスキー大会が上富良野で昨年度は開催されず、約2千人の利用者減だったので、昨年度より目標数値を下げている。

(資料3)平成28年度目標数値と現状

・6月2日現在の数値について

現時点では、宿泊利用者数は63,818人で、目標値からは約7,000人不足。日帰り利用者数は4,049人で、目標値からは約18,000人不足。合わせて25,000人不足となっている。

理由としては、申し込み開始が利用日の6か月前というルールにより、12月以降の利用予定がまだ入っていないということと、日帰り利用者数に関しては下山プロジェクトやプールなどの利用者を現時点の見込みとして計上していないことが挙げられる。

・今後の見込みについて

今後は、教育事業、リレーションシップ事業及び下山プロジェクトで約16,300人の利用者数増を見込むことで、総利用者宿泊利用者数は84,167人となる。また、したがって、不足分合計9,000人の今後の利用申し込み期待数及新規呼び込みが必要である。

(資料4)平成28年度利用促進部会アクションプランとその実施状況(案)(自己点検・評価表の評価に係る根拠資料)

・利用促進方策について

今後の利用促進方策については、特別企画事業の実施、利用促進誘致を実施する予定。

その他、交流の家が広報できるイベントがあれば、ご教示いただきたい。

○部会長

ただいま、事務局から平成28年度の施設利用見込みの状況及び利用促進アクションプラン案について説明があったが何か意見やアドバイスや、イベント情報などの提供はあるか。また、内容に係ってわからない点などの質問があるか。

□委員

高齢者大学の広報対象は上川管内のみか。もっと広げてみてはどうか。昨年来ていないところにも広報を行ってみたり、10月・11月の利用が考えられる片道3時間圏内の団体をターゲットに広報してはどうか。

□委員

旭川の商工会議所や大学の部活など、対象を絞って広報を行っているのか。

●事務局

全てを対象とした広報はなかなかできない。今後、利用分析の結果により、ターゲットを絞った広報を行うことを考えている。

□委員

閑散期の高校生は、定期考査や部活動の大会がないこと、移動手段がないこともあり、利用は厳しいかもしれない。移動手段の提供として、施設のバスを運行することは可能なのか。

●事務局

運行規程に合致していれば可能である。

□委員

独占的に体育館を使いたい団体があった際に、美瑛町と連携し、スポーツセンターなどを利用することは可能か。

●事務局

美瑛町と相談になるが、可能である。

□委員

4月、7月、10月、3月に行われる校長会等で広報活動を行ってはどうか。様々な団体が校長会で広報活動を行う場面もあり、特に違和感もないので広報は可能だと思われる。

●事務局

相談の上、広報をさせていただきたい。

□委員

宿泊室稼働率は一般団体でも稼げると思うが、一般の団体への広報活動はどのように行っているのか。

●事務局

ホームページで広報を実施しているが、一般利用が可能であることを知らない方がまだいる。ケーブルテレビや新聞で取り上げていただければ、そういう形での広報も考えていきたい。

□委員

広告のような大々的な広報活動はできないか。

●事務局

大々的な広報を行う際に、「料金が安い」といった側面だけに焦点が当たるような言い方をすると、民業圧迫につながり、民間企業との軋轢を生みかねない。焦点を当てるとすれば、あくまでも「こういう研修ができる」といったところ。

□委員

敢えて「安い」と言わなくても家族向けに、夏休み中にでも「こういう体験学習ができる」といったPRをホームページでできないか。

●事務局

家族向けにも「こんな体験ができる」といったPRはしている。

□委員

夏休みは一般の利用は多いのか。

●事務局

ゴールデンウィークや夏休みは多い。ただし、10月・11月の秋季は、シーズンとしてはいいが、その時期に利用申込みをしてくる一般団体がなかなかいない。

□委員

グーグルでアカウントを取って「ファミリー 宿泊施設」と検索すれば最初に交流の家が検索されるような工夫をしてみてもどうか。検索の最初に出てくるような仕組みを作れば、その中からどれだけ問い合わせが来るかといった調査もできるようになる。

●事務局

検討してみたい。

□委員

学校の教員は、異動した後も、一度使ってよかった施設は覚えているので、異動先でもリピーターとして施設を利用してくれる場合もある。

●事務局

今年度、実際にそのような利用申込みがあった。

□委員

学校の間では、交流の家の知名度はわりと高い。

□委員

外国人旅行者等への声かけはどうか。

JETプログラムで来日している外国人は、研修として使ってくれる可能性があるかもしれない。教育施設でなければ予算がおりないところもあるらしいので。

○部会長

本日は、議題としては1と2を関連させて議論を進めることができた。以上のアイデアなどを実行し成果が出れば、利用者数目標はクリアーできるのではないかな。

●事務局

実際の宿泊利用者数は、予約者数と比較すると減となる場合が多いため、安心はできない。また今後とも様々なご意見をいただきたい。

○各委員は、利用促進に関して何か情報やアイデアがあれば、交流の家に提供してほしい。

●事務局

今後必要に応じて、書面審議をさせていただく場合があるので了承いただきたい。  
なお、次回の利用促進部会は11月開催を予定。

□委員

了承。

会議終了，閉会宣言